

# 目次

I 調査研究の概要	
1 調査の背景・目的	1
2 調査対象—伝統的知識とは	1
3 調査内容	2
4 調査方法	3
II 伝統的知識に関する国際動向—マルチプル・フォーラム	5
III 伝統的知識保護に関する国内法整備の状況	
1 総論	
(1) 伝統的知識のための固有の保護制度の有無	13
(2) 各種法的枠組みにおける伝統的知識の保護制度	14
(3) 改正又は新規導入の動向	25
2 各論	
(1) 制度趣旨	32
(2) 保護の対象・「伝統的知識」の定義	38
(3) 権利者	44
(4) 保護の態様・内容	46
(5) PIC（事前の情報に基づく合意）・MAT（相互に合意する条件）	
①PIC	65
②MAT	69
(6) 利益配分	71
(7) 登録制度	74
(8) 不服申立て制度	77
(9) 侵害された場合の救済・罰則規定等	79
(10) 特許制度における出所開示義務	86
(11) その他の論点	
①いわゆる「地域的な伝統的知識」問題	91
②慣習法やプロトコルの認知の有無	92
③個人／社会の権利の区別	93
IV 伝統的知識に関する具体的な保護事例	94
V 「不正使用」についての理解	97
VI 伝統的知識に関する不正使用事例	98

(資料) 質問表 (英語・日本語)

各国の法令を収載した別冊：資料集があります。